

第4学年 総合的な学習の時間指導案

1 単元名 「ともに生きる やさしい町」

2 指導観

このような子どもだから

子ども達はこれまでに、公民館、杜の公園、地下鉄 駅のみんなにやさしいものを探す活動を行った。その中で、身体が不自由な方や目の不自由な方などのために、様々なバリアフリーの施設があることを学んでいる。この活動を通して、子ども達は、いろいろな立場の人がいることや、バリアフリーの施設の大切さに気付きはじめている。

このような教材で

バリアフリーは新しい施設には多く見られるものであり、そのような考えで建物を造ることが誰にでも使いやすくなることにつながる。しかし、古い建物や道路など、不十分な面も多い。そこで、アイマスク体験や車椅子体験をすることによって、施設の不十分さ、身体が不自由な方や目の不自由な方の苦勞について気付かせ、追究したいという意欲を高めることができると考える。

さんは、校区に住んでいらっしゃる方である。脳梗塞で倒れ、車椅子生活となった奥様と公演を行っておられる。一緒に生活をする中で、奥様の悩み、車椅子での生活の不便さなどを感じていらっしゃる。このように、さんから実際にお話を聞くことにより、校区の不便さや身体の不自由な方の苦勞に気付かせることができると考える。また、さんだけでなく、目の不自由な方、耳の不自由な方にもゲストティーチャーとして来校していただき、日常生活のことや、困っていらっしゃるなどのお話を聞くことにより、障がいのある方々の苦勞に目を向けさせ、自分も何かできることをしたいという思いを高めることができると考える。

このような支援で

つかむ段階では、障がいのある方が生活する上で困っていることがあることに気付き、が安心して暮らせる町になっているのか調べるという学習問題をつくることをねらっている。そのために、車椅子での生活の大変さや校区の不便さなどについて さんの話を聞くことによって、障がいのある方の苦勞に気付かせるようにしたい。また、車椅子やアイマスクなどの体験をすることによって、障がいのある方の苦勞を実感させたい。

次にさぐる段階では、課題の追究を通して、の町が障がいのある方にとってやさしい町とは言えないところがあることに気付かせることをねらっている。そのために、課題追究の計画を立てたり、中間交流会を行ったりすることによって、主体的に学習を進めることができるようにしたい。そして、追究を通して分かったことを発表し合うことによって、の町の不便さを共通理解させたい。さらに、がもっとやさしい町になるためには、周りの人の支えが大切であることについて さんの話を聞くことによって、自分たちにも何かできるのではないかという思いを高めたい。

最後にまとめる段階では、をやさしい町にするために、これからも自分にできることを率先して行いたいという思いを高めることをねらっている。そのために、をもっとやさしい町にするために自分にできることを考え、実践する活動を通して、自分や友達の頑張りを認め合わせたい。

このような子どもに

校区のバリアフリー施設、設備の調査活動や体験活動、G Tの話から課題意識をもち、追究計画を立てることができる。(課題設定能力)

意欲的に調査や体験をし、障がいのある方の立場に立って積極的に行動していこうとすることができる。(主体的、創造的、共同的な態度)

自分が設定した課題を解決するために、見通しをもって調査したり、調べたことを分かりやすく表現したりして、主体的に追究することができる。(問題解決の能力)

これからも障がいのある方とともに生活していくために、自分にできることをすることやの町をよりよくしていくことが大切であることに気付き、これからの自分の考え方にいかしていくことができる。(自己の生き方・考え方)

3 学習指導計画 30時間

段階	活動のねらい	学 習 活 動	主な支援と教科との関連	配時
つかむ	G Tの話や疑似体験を通して,分かったことや思ったことなどから学習問題をつくることができる。	<p>1 車椅子やアイマスク,点字などの疑似体験やG Tの話から,学習問題をつくる。</p> <p>(1) 1学期の学習をふり返り,障がいのある方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知っていること ・困っていること <p>(2) G Tの話を聞く。</p> <p>(3) 疑似体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子, アイマスク ・点字 ・手話 	<p>校区の施設についてふり返らせるために,1学期の学習内容の掲示物を用意する。</p> <p>G Tから困っていることについての話を聞くことによって,障がいのある方の苦勞に気づかせる。</p> <p>疑似体験によって,自分たちが当たり前に行っていることができないことや大変さに気づかせる。</p> <p>体験やお話から感じた大変さと,1学期に学習した施設の便利さを比較することによって,課題意識をもたせる。</p> <p>疑似体験やG Tの話から,共通の課題をつくろうとしている。</p>	9
		<p>(4) G Tの話や疑似体験から分かったことや思ったことを話し合い,学習問題をつくる。</p> <p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>の町は,障がいのある方たちが,安心してらせる町になっているのだろうか。</p> </div>		本時
さぐる	問題を解決するための方法や内容について見通しをもち,調査・追究することができる。	<p>2 自分の課題をつくり,活動計画を立てる。</p> <p>(1) 学習問題に対する予想を立て,自分の課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区の道路の様子 ・障がいのある方たちへの校区の取り組み ・障がいのある方たちにとって便利な道具 ・校区の危険箇所 など <p>(2) 自分の課題をもとに,学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を ・どんな方法で 	<p>予想を立てることが難しい児童には,G Tの話をふり返ったり,校区の様子の写真を提示したりして,根拠をもった予想を立てさせる。</p> <p>根拠をもとに自分の課題を決め,追究の見通しを持っている。</p> <p>焦点化された効率的な調査ができるように,事前に調査,打ち合わせをしておく。</p> <p>調査の視点に沿って,粘り強く自分の課題を追究している。</p>	2
		<p>3 学習計画に沿って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区の道路調査 ・校区の危険箇所調査 ・公民館へのインタビュー ・インターネット,本での調査など 		3
				2

	<p>学習問題について話し合い、の町の不十分さや自分にもできることがあることに気付く。</p>	<p>4 調べたことをもとに、中間交流会をする。 (1) 同じ課題の小グループで交流する。 (2) 調べた内容や方法を見直す。 ・調べた内容の付加、修正、強化</p> <p>5 発表資料を作成する。 (1) 見直しをもとに、再調査する。 (2) 発表資料を作成する。 ・写真、絵、グラフを使った資料</p> <p>6 調べたことを発表し、学習問題についてまとめる。 (1) 課題別のグループで発表をする。 (2) 学習問題について話し合い、まとめる。</p>	<p>同じ課題のグループで交流させ、調べた内容、方法を見直させる。 調べた内容や方法を検討し、これからの追究の視点を決めている。</p> <p>発表資料の見直しをもたせるために、モデルを提示する。 写真や図を効果的に活用し、調べたことをまとめている。</p> <p>事前にグループのメンバーと共同的に発表できるように練習させる。 自分の課題を解決しながら、学習問題をまとめている。</p>	<p>6 2</p>
<p>ま と め る</p>	<p>やさしい町にするためにできることを実践することによって、これからも続けていきたいという意欲をもつことができる。</p>	<p>7 をもっとやさしい町にするためにできることを考え、実践する。 (1) これからもっと がやさしい町になるために、大切なものは何か話し合う。 (2) 自分たちにできることを考える。 (3) 自分たちにできることを発信する。 ・ボランティア ・ポスター、新聞 ・G Tとの交流 ・点字の手紙</p> <p>8 学習をふり返る。 ・自他のがんばり ・自分の見方、感じ方、考え方の変容</p>	<p>根拠を明らかにして自分にできることを決めさせるために、他者の意見を参考にさせる。 根拠を明らかにして、自分にできることを決めている。 効果的な表現方法を選ばせるために、多様な表現方法を提示する。 効果的な表現方法を選び、伝えたいことをまとめている。 自分の考えの変容や字自他のがんばりに気づかせるために、各視点を提示したり、学習記録をふりかえらせたりする。 学習をふり返り、達成感や有用間、これからの自分について書いている。</p>	<p>5 1</p>
<p>校區は、障がいをもっている方たちが過ごしやすい施設が整っているの、やさしい町だと思っていました。しかし、アイマスクや車椅子体験をして、障がいをもっている方たちの生活する上での不安や怖さが分かりました。実際に校區を調べてみると、道路には大きな段差があり、危険な箇所もたくさんありました。だから、障がいのある方たちの不安や怖さを安心にかえるために、私は少しでも障がいのある方たちへサポートをしたいと思いました。障がいのある方たちに出会ったら、サポートできることはないか、自分から声をかけていこうと思います。</p>				

4 本 時 (9 / 3 0) 月 日 () 4 年 組教室

5 本時目標

G Tの話や、車椅子・アイマスクなどの疑似体験をした感想を交流し、 の町が障がいのある方にとって安心してらせる町になっているのか調べたいという意欲をもつことができる。

6 本時指導の考え方

これまでに子どもたちは、 さんたちの話を聞き、身体が不自由な方が不便さや不安を感じながら生活していることを教えてもらった。そして、車椅子やアイマスク、手話、点字の体験を行った。これらの活動を通して、障がいのある方が感じている怖さや不便さを体感し、障がいのある方の苦勞について感想をもつことができた。そこで、本時では、感想について全体で交流することによって、学習問題を設定し、課題追究への意欲を高めることをねらいとしている。そのために、次のような授業仮説を設定し学習を進めていく。

授業仮説

G Tの話や疑似体験の感想を交流する場面において、以下のような手立てを行えば、学習問題を設定し、追究活動への意欲を高めることができるであろう。

学習問題につながるキーワードを子どもたちの言葉から導き出すことができるようにするために、G Tの話や疑似体験の感想について全体で交流を行う場を設定する。

G Tの話や疑似体験の感想について、考えをはっきりと伝え合うために、自分の考えを整理したカードをもたせ、自分の考えに理由をつけたり、友達の考えと比べたりしながら話し合わせる。

上記した授業仮説に沿って活動を進めていく。

導入段階では、前時の学習をふり返り、本時のめあてをつかむことをねらう。そこで、疑似体験のときに感じたことを想起させるために、疑似体験をしている時のビデオを見せたり、写真などを提示したりする。

展開段階では、 さんの話や疑似体験についての感想を話し合い、障がいをもつ方の大変さや苦勞に改めて気づいたり、自分の考えを深めたりすることをねらう。そのために、 さんの話や疑似体験の感想について全体で交流をさせる(仮説)。ここでは、一人一人に自分の考えを整理したカードを持たせておく。これによって、自信を持って自分の考えを言うことができるようにしたい。そして、自分の考えに理由をつけたり、前の発言と自分の考えをつなぐ言葉を言ったりしながら話し合わせる(仮説)。具体的には、まず、自分の考えを述べさせ、その後に理由を言わせる。また、次に発言する時は、前の考えと比べて「同じ」、「似ている」、「ちがって」という言葉を述べて、友達の考えと比べながら自分の考えを言わせるようにする。これによって、自分の考えがはっきりと伝わるようになるとともに、友達の考えを自分の考えと比べながら聞くことができるようになる。ここで、疑似体験の感想や理由について子どもたちから出た言葉を、「車椅子の方」「目の不自由な方」「耳の不自由な方」という項目と、G Tの「すごさ」と「不便さ」というように整理して板書する。これによって、学習問題を子どもたちの言葉で導き出すことができるようにしたい。

終末段階では、学習問題を設定することをねらう。そのために、まず、板書した感想や理由をふり返らせる。次に、公民館の利用者のうち障がいのある方の人数を知らせ、公民館が様々な工夫がされたやさしい施設にも関わらず障がいのある方の利用が少ないことに気づかせ、「 の町は本当にやさしい町になっているのか」という疑問をもたせたい。さらに、これからどんなことをしていきたいか発表させて、学習問題を設定し、これからの学習の見通しをもたせたい。

7 準備

教師：ビデオ、写真、 公民館の利用者の掲示物

児童：感想カード、学習プリント

8 本時の展開

学習活動と内容	支 援	子どもの思考の流れ
<p>1 前時の学習をふり返り，本時学習のめあてについて確認する。 G Tの話や疑似体験についてビデオなどを通してふり返り，本時のめあてをとらえること</p> <p>めあて</p> <p>G Tの方のお話や体験をして感じたことを話し合い，学習問題をつくろう。</p>	<p>G Tの話や疑似体験について想起しやすくするため，ビデオを見せたり，写真を掲示したりする。</p>	<p>さんが車椅子で出かけるのは大変だって言っていたな。 実際に車椅子に乗ったけど，ちょっとした段差でも上るのが大変だったな。</p>
<p>2 G Tの話や疑似体験をした感想を話し合う。 G Tの話や疑似体験の感想に理由をつけて話したり，友達の考えを自分と比べながら聞いたりすること</p>	<p>感想に理由をつけて発表することができるようにするため，感想についてまとめさせたカードを持たせておく。 発言を整理して板書し，学習問題につなぐことができるようにする。</p>	<p>私は目の不自由な方はずごいと思いました。その理由は，点字をすごく速く読めるからです。 ぼくは，耳が聞こえないと危ないと思いました。そのわけは，救急車などが来ても分からないからです。</p>
<p>3 これから学習したいことを考え，学習問題をつくる。 校区がやさしい町になっているか調べていくことをつかむこと</p> <p>学習問題</p>	<p>公民館の利用者に障がいのある方が少ないことを知らせることによって，課題意識をもつことができるようにする。</p>	<p>公民館にはたくさん工夫があったのに，どうして障がいのある方の利用が少ないのかな。 駅から公民館まで段差が多くて来られないのかも知れない。道の段差を調べてみようかな。 障がいのある方のための工夫ってどんなものがあるのかな。</p>
<p>4 「今日の学習で」を書き，発表する。</p> <p>今日は， さんのお話や車椅子・アイマスクの体験をした感想を話し合いました。私は，車椅子の方は大変だなあと思いました。それは，ちょっとした段差でも乗り越えられなかったからです。1学期の学習で， の町にはいろいろな工夫がされた施設があるからやさしい町だと思っていたけれど，本当にそうなのかなとときもんに思いました。これから， の町が障がいのある人にとってやさしい町なのか詳しく調べていきたいです。</p>		

9 板書計画

